



灰鈔の記憶

夕張市の中部に位置している清水沢地区は、今も色濃く炭鉱の記憶が残るまちです。もともとは農地として開かれたところに、徐々に炭鉱に関係する機能が集まってきたことで、まちの姿が変わっています。

清水沢の歴史をたどる3つのキーワード

明治 ●大夕張
夕張本町方面と大夕張方面との鉄道・道路の分岐点になり、物資や人が行き交う拠点になりました。

大正 ●電力
北炭(北海道炭礦汽船(株))が国内有数規模となる火力・水力発電所を設置し、空知全域の系列炭鉱へ電力を供給しました。

昭和 ● 炭鉱
1947(昭和22)年に北炭清水沢鉱が開鉱しました。1975(昭和50)年には北炭夕張新鉱が開鉱し、清陵町に大規模な社宅街ができました。

※現在も清水沢鉱の事務所・安全灯室・斜坑・立坑坑口・スリ山・炭鉱住宅などが残っており、石炭の生産システムを歩いてたどることができます。

清水沢・大夕張地区の炭鉱の閉山により、炭鉱関連機能は失われていきました。しかし観光産業への転換が行われず、跡地の多くがほとんど未利用だったため、地域全体がまるごと博物館と言えるほど、炭鉱の記憶が今でも色濃く残っています。



炭鉱遺産をめぐるウォーキングマップ



 札幌市立大学 SAPPORO CITY UNIVERSITY デザイン研究科看護学研究科 連携プロジェクト演習
渡邊俊介 黄琦 横川亜希子 谷口江里子

このウォーキングマップは札幌市立大学大学院のデザイン研究科と看護学研究科が協力して行う「連携プロジェクト演習」の中で製作したものです。「連携プロジェクト演習」では、“デザインと看護が連携した取り組みによる地域貢献”をねらいとしています。私たちは NPO 炭鉱の記憶推進事業団と協力し、「夕張市清水沢」の炭鉱遺産をめぐるウォーキングマップを作成しました。清水沢の住民の方も、清水沢を訪れた方も無理なく歩きながら炭鉱の記憶をたどることができるものとして利用していただけると幸いです。

札幌市立大学大学院連携プロジェクト演習メンバー一同

- ご注意！事前に必ずお読みください

 - 記載した内容は、2012年2月現在の状況をもとにしています。その後、施設の存廃や営業内容・時間の変更など、記載内容が変化している場合もありますので、**利用前にご自身でご確認下さい。**
 - 炭鉱遺産は、多くが企業・個人の所有となっており、**私有地内に勝手に立ち入らない**で下さい。また、炭鉱住宅など生活の場の中にある炭鉱遺産では、住民に一声かけて撮影・見学の許可を得るなど、**節度を持った見学をお願いします。**
 - 炭鉱遺産には、管理されずに自然崩壊に任せている危険な物件も多くあります。また、野生鳥獣や害虫も多く出没する一帯ですので、**危険な場所にみだりに立ち入らない**ように注意して下さい。このパンフレット見ながら現地を回った際に、**人身・物件などに損害を被っても、当NPOは一切の責任は負いかねますので、自己責任によって行動して下さい。**

 http://www.soratan.com/
NPO
法人
炭鉱の記憶推進事業団
そらち 炭鉱の記憶マネジメントセンター

〒068-0021 岩見沢市1条西4丁目3
Tel.0126-24-9901 Fax.0126-24-9902
infomc@soratan.com



炭鉱遺産をめぐる夕張市清水沢マップ

